

令和7年度第2回小松島市こども計画策定会議 議事概要

日時：令和7年10月20日（月）午前10時～

場所：小松島市保健センター2階 保健事業室

会議次第

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 議題
 - (1) 骨子案の内容について
 - (2) キャッチフレーズについて

議題（1）について、事務局が説明（約3分）

【A 委員】

この計画は、そもそも誰に向けて出すものなのか確認したい。子どもや若者が手に取ったとき、本当に心に届く内容になっているのか気になっている。文字量が多く、専門用語も多いので、専門家でないと理解しにくい印象がある。小中学生や一般の市民でも分かるように、もう少し言葉をやさしくしたり、注釈を付けるなどの工夫が必要ではないか。「医療的ケア児」「ヤングケアラー」「ファミリーホーム」「ライフデザイン」といった言葉は、意味が分からない人も多いと思われるため、丁寧に説明していく必要があるのではないか。

【事務局回答】

今回の計画は、市内の全世代に向けて情報提供する位置づけになっており、その性質上、ある程度の専門用語が含まれるのは避けにくい。ただし、子ども向けには別で「計画書の概要版（一般向けと子ども向け）」を作成し、そちらでは分かりやすい表現を心がける予定。さらに、74ページに用語説明欄を設けており、四字熟語のような硬い表現や分かりにくい専門用語については、この欄を充実させる形で補足や注釈を追加していく方向で考えている。

【B 委員】

基本目標4に掲げる「社会的養護」と「社会的養育」という二つの用語の違いが分かりにくい。「社会的養護を推進する」という表現は、場合によっては『家庭で育てられない子どもが増える』と誤って受け取られる可能性もあるため、家庭的養育優先の国方針に沿った表現に改めてはどうか。また、社会的養護といえは現実的には「施

設」と「ファミリーホーム」の二つが該当すると思われるが、事業の項目には「里親」に関する記載のみが見受けられる。また、県内で唯一の乳児院があり、そこで20名ほどの乳児が育てられている現状もある。その役割や支援の方向性についても、計画の中でもう少し触れてもよいのではないかと感じている。

【事務局回答】

社会的養護という用語の扱いについては、こちらでも以前から悩んできたところで、今の書き方では誤解を招く可能性があるという指摘はそのとおりだと受け止めている。「家庭での養育が困難な場合に、社会が支える仕組み」という趣旨が明確になるよう表現を再検討する。小松島市には里親はいるが、市として児童養護施設を持っていない現状があり、その状況を踏まえて今の表現になっている。ただ、より伝わりやすい表記にできるよう、改めて見直していきたい。また、乳児院に関するご意見も踏まえて、記載内容や書き方についてもあわせて整理したい。

【C委員】

50ページの「子どもの居場所づくりに資する取組」のところだが、読み方によっては、学校の先生が放課後の居場所づくりを担っているようにも見える書き方になっている。実際には、授業が終わった後、学童クラブの職員が体育館など学校施設を借りて子どもを見守っており、先生方の負担を増やすことなく運営しているのが現状。だからこそ、誰がどんな役割で居場所づくりに関わっているのか、学校・地域・学童それぞれの役割分担が誤解されないよう、表現を整理した方がいいと思う。

【事務局回答】

この部分の文章は、国が示す設置要件などを踏まえた結果、どうしても教科書的で形式的な書き方になってしまっている。小学校の余裕教室を使った学童保育クラブが国としては推奨される一方、実際には学校敷地外で運営しているクラブもあるため、計画の記述と実態の間にズレが出ている部分もある。その点を踏まえつつ、担当課とも調整し、「学校」「地域」「放課後児童クラブ」「放課後子ども教室」それぞれの役割が分かりやすく伝わるよう、文言を見直す方向で進めたい。

【D委員】

「保育所・幼稚園・こども園」と並べて書かれているところについてだが、今後、市立幼稚園は認定こども園へ移行する予定があることを踏まえると、「幼稚園」という言い方が何を指しているのか分かりにくい印象がある。市外の幼稚園も含めているのか、市の施設体系としてどの位置づけで使っているのかを明確にした方がいいのでは

ないか。将来像も踏まえて、「保育所・認定こども園」といった整理の仕方に変えた方が分かりやすいと思う。

【事務局回答】

幼稚園の機能については、特例措置により令和8年度から順次、泰地保育所へ移していく方向で検討しており、「幼稚園」という名称は残さない見込み。ただ、まだ所管課の中で検討が続いている段階でもあるので、いただいた指摘を踏まえつつ、今後の施設体系に合わせた表記に修正できないか、関係部署と調整したい。

【E 委員】

本文を読んでいくだけでは、基本目標・基本方針・個別施策のつながりが分かりにくい。46ページの一覧表を見ると、どの基本目標に対してどの施策が位置づけられているのか一目で分かるので、この表をもっと前のほうに持ってくるなど、構成を工夫した方が理解しやすいのではないか。また、基本施策の見出しのところに「基本目標1に対応」などと示すだけでも、文章を読んだときの見通しが良くなると思う。

【事務局回答】

一覧表は計画全体を俯瞰するうえで非常に重要な役割を持っている。基本目標・基本方針・実施施策の関係が読み手に自然と伝わるよう、本文から一覧表への導線づくりや見出しの工夫など、構成全体を整理していきたい。

【F 委員】

小松島市には「徳島赤十字ひのみね医療療育センター」と「徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院」あり、医療的ケア児を含めた専門的な支援体制がかなり整っているのが強みだと思う。市内にこれだけの機能を持った拠点がある自治体は多くないので、計画の中でもう少し丁寧に触れておいた方がいいのではないか。医療的ケア児や発達障害のある子どもへの支援は、保護者にとって大きな安心材料になるので、その点をしっかり記載することで、小松島市の支援の厚みがより伝わると思う。

【事務局回答】

「徳島赤十字ひのみね医療療育センター」と「徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院」に関する支援内容は、市としても重要な取組と認識している。ただ、この計画は理念的な位置づけの計画であり、どこまで具体的に書き込むのか、他の関連計画（障害福祉計画や保健部門の計画など）との役割分担をどう整理するのが課題になると考えている。

【G 委員】

保育に関する部分だが、小松島市は延長保育の仕組みが比較的しっかりしていて、保護者にとって利用しやすい環境が整っていると思う。この点は市の強みのひとつでもあるので、計画の中で少し触れておいた方が良いのではないか。共働き世帯も増えている中で、延長保育の充実は実際の子育て支援としてかなり重要なポイントになるので、計画にも反映しておくことで読み手にも伝わりやすいと感じている。

【事務局回答】

延長保育に関する指摘についてはそのとおりで、実際に小松島市の特徴として押さえておくべき点だと考えている。67 ページの保育に関する記述の中で、延長保育の取組がきちんと伝わるように表現を工夫したい。過度に詳細に書き込みすぎないように注意しつつ、市の強みとして適切に盛り込めるよう検討していく。

【H 委員】

出生数の減少や若者アンケートの結果を見ると、結婚や出産を希望しても小松島に住み続ける若者が少ない現状がある。隣の自治体との比較や、市街化調整区域の制約などもあって、家を建てる場所として他市町を選ぶケースも起きている。だから、結婚・妊娠・出産の支援だけではなく、「小松島で家庭をつくり、ここに住みたい」と思えるようなイメージアップや住宅施策など、総合的な定住促進の視点を計画にも盛り込んでほしい。

【事務局回答】

第6次総合計画のもと、これまでも「子どもを生み育てやすいまちづくり」を基本理念として位置づけてきた。今回いただいた「小松島のイメージアップ」や「若者が住み続けたいと思える環境づくり」といった視点は、今後の施策検討のうえでもしっかり意識して取り組んでいきたい。

【I 委員】

学校再編などハード面の整備が進んでいる一方で、保護者が求めているのは「自分で考えて行動できる子ども」を育てるような教育のソフト面の充実だという声が多い。タウンミーティングでも同じような意見が出ていた。小松島の教育に特化した取り組みや場づくりを考え、教育の質に魅力を感じて「ここで子どもを育てたい」と思ってもらえる方向性を、計画の中でも打ち出してほしい。

【事務局回答】

理念は高く掲げ、その理念を具体的な計画や施策につなげていくことが重要だと考えている。委員からの意見も踏まえ、今後の施策の検討に反映していきたい。

【J 委員】

アンケートをみると、小学生の段階では家庭や地域への満足度が高いのに、若者になると「小松島に住み続けたい」と思う割合が大きく下がっている。「子どものときの満足度」と「大人になったときのふるさとへの誇り」のギャップは、小松島ならではの大事なメッセージだと思う。計画を実行していく際には、「本当に子どもや若者が真ん中にいるのか」という視点を常に原点として持ち、市の都合ではなく当事者の視点から施策を見直してほしい。

【事務局回答】

昨年度のアンケートは、市民の声を反映した大きなデータとして受け止めている。そこから見えてきた市民の意識や課題を丁寧に読み取り、今後の施策の展開や説明の仕方に反映していきたい。

議題 (2) について事務局説明 (1分)**【A 委員】**

キャッチフレーズを委員だけから募集する形になっているが、一般公募を行わない理由を知りたい。市民全体に関わる計画である以上、広く案を募るという方法もあるのではないか。

【事務局回答】

一般公募を行わず委員から募集しているのは、計画の内容や方向性を理解したうえで案を出していただくことで、理念と整合の取れた表現を得やすいと考えているため。当初から一般公募は想定していない。

【B 委員】

「小松島らしさ」をキャッチフレーズにどう反映させるのかが気になっている。キャッチフレーズは、小松島の未来像を示すものなのか、それとも小松島らしさそのものを凝縮した言葉なのか、その位置づけを明確にしてほしい。

【事務局回答】

「小松島らしさ」は計画本文の中でしっかり表現されるべきものだと考えている。また、第6次総合計画や第3期子ども・子育て支援事業計画で使用している既存のキャッチフレーズとの整合も踏まえつつ、委員からの意見を参考に検討していきたい。